

真偽問題 正しいものは①、正しくないものは②にマークしなさい。
①、②以外を塗りつぶすと誤答になります。

- 問(1) 鍵盤上で同じ音でも、呼び名(表記)が異なるものを異名同音という。
- 問(2) 33Fと42Dの音程は、長6度である。
- 問(3) 変ホ長調の平行調は、ト短調である。
- 問(4) 「子供の情景」は、ドビュッシーが作曲したピアノ曲である。
- 問(5) 人間の耳には音として感じられないほど周波数が高い音波を、超音波という。
- 問(6) クラヴィコードの有効弦長は、駒とプレクトラムの位置で決まる。
- 問(7) アクリル製鍵盤の新型コロナウイルス除去には、90%以上の高濃度アルコールの使用が望ましい。
- 問(8) ピアノ響板は、比重が0.3以下の優れたスプルースが使用される。
- 問(9) 鍵盤材料の木取りは、上面から見ると柾目、側面から見ると板目となるようにする。
- 問(10) 響棒は、響板の木目方向に合わせて取り付けられる。
- 問(11) 平均律の長3度は、ミーントーンの主要な長3度に比べて14セントの差がある。
- 問(12) 平均律の割振り音域では、A-C、A-C#の場合、長3度に生じる喰りの方が多い。
- 問(13) 割振りの4度を調律するときは、下の音の第3倍音と上の音の第4倍音の差を確認して行う。
- 問(14) 調律カーブは、大型ピアノのほうが平坦になる傾向がある。
- 問(15) グランドピアノのダンパーペダルの掛かり(始動)は、打弦距離で弦からおよそ1/3の位置である。
- 問(16) 整調を行う際は、工程順に従って調整を進めるが、大きな調整差のある工程は、通常の工程順から切り離し優先して調整を行う場合がある。
- 問(17) グランドピアノのジャック前後を微調整した際は、ハンマー接近(レットオフ)を再調整する必要がある。
- 問(18) グランドピアノでハンマー戻り(ドロップ)を小さくすると、働きは小さくなる。
- 問(19) ハンマー硬化剤を使用する際は、換気に留意して作業を行う。
- 問(20) ハンマーフェルトが柔らかいほど、高次倍音が消されるため、音色は柔らかくなる。
- 問(21) チューニングピンのトルクが低くなった場合の修理方法として、太ピンに替える方法がある。
- 問(22) グランドピアノのハンマーシャンク交換は、接着後ハンマーシャンクを切断する。
- 問(23) センターピンのトルクは、フレンジが自重で下がる状態では不足している。
- 問(24) 鍵盤のバランスホールが前後ガタの場合、バランスホールに木工用ボンドを埋め込めばよい。
- 問(25) 消音型ピアノのハンマー接近(レットオフ)は、アップライトピアノでは、消音時にハンマーシャンクを止める位置を基準に調整する。

問(30) 一般家庭のピアノの設置に際しての留意点のうち、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 直射日光を避けた場所
2. アップライトピアノの背面と壁との距離
3. 床・壁・天井による音の反射・吸収・透過
4. 設置場所の通気性
5. 1～4 に該当なし

問(31) フレームについて、正しいものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 素材は、鋼鉄である。
2. ピアノの張力は、フレームでほとんどが支えられている。
3. 初期のフレームは、放射状に鉄の棒を組んだ。
4. 鉄製フレームの導入は、ヨーロッパの方がアメリカより進んでいた。
5. 1～4 に該当なし

問(32) ピアノの音量の増大に直接寄与していないものを1つ選べ。

1. 象牙鍵盤
2. フェルト製ハンマー
3. イギリス式アクション
4. ミュージックワイヤー(鋼鉄弦)
5. 鉄製フレーム

問(33) ピッチについて、適切でないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 1834年のシュトゥットガルト会議で、 $49A=440\text{Hz}$ が決められた。
2. 1859年のパリ会議、1885年のウイーン会議において、国際標準高度として $49A=435\text{Hz}$ が定められた。
3. 第2次大戦後、アメリカにおいて、演奏会用標準高度として $49A=440\text{Hz}$ が採用された。
4. 調律の際には、演奏者にピッチを確認することが必要である。
5. 1～4 に該当なし

問(34) 次の記述の中から、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 古典調律は現在でも演奏者の求めに応じて使用されることがある。
2. 純正調は、和音の純粋さが大きな長所と言えるが、転調が非常に困難である。
3. ミーントーンは、若干の転調が可能になり、さらにヴェルクマイスターやキルンベルガーの調律法に発展した。
4. 平均律は、全ての調で使用されるが、音楽に重要な長3度に多くの歪みがある。
5. 1～4 に該当なし

問(35) 以下の中から正しいものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 平均律完全5度は、純正律完全5度より2セント狭い。
2. 平均律短3度は、純正短3度より14セント狭い。
3. 平均律長3度は、純正長3度より16セント広い。
4. 平均律長6度は、純正長6度より14セント広い。
5. 1～4 に該当なし

問(36) オクターブの検査音程の説明で以下の中から正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. オクターブの検査で、25A-28C と 28C-37A の唸りを比較し、それぞれの唸りが同じであれば、25A-37A のオクターブは正しい。
2. 上記 1. の検査は、割振りが不正確だとオクターブの正しさが判別できない。
3. オクターブの検査で、33F-37A と 33F-49A の唸りを比較し、それぞれの唸りが同じであれば、37A-49A のオクターブは正しい。
4. 上記 3. の検査は、割り振りが不正確でもオクターブの正しさが判別できる。
5. 1～4 に該当なし

問(37) 平均律で調律した場合、ピアノの 33F と 37A の関係で正しいものを 1 つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. セント数は 386 セントとなる。
2. 振動数比は約4:5で、音程は長3度である。
3. 振動数比は約5:6で、音程は短3度である。
4. 共通倍音はおよそ 61A 付近で、唸りは秒間約9回となる。
5. 1～4 に該当なし

問(38) 以下の文で、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 鍵盤の高さ調整(ならし)をする前に、から直し(ロストモーション)の調整が必要である。
2. 鍵盤の高さ調整(ならし)では、鍵盤左右の傾きを正す必要がある。
3. グランドピアノで特定の鍵盤上面の高さが低いときは、ベッディングスクリュー(すべり金具)を回して調整する。
4. グランドピアノでベッディングスクリュー(すべり金具)を調節したときは、鍵盤の高さや深さを確認・調整することが必要である。
5. 1～4 に該当なし

問(39) アップライトピアノの整調について、正しいものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. から直し(ロストモーション)を調整しても、ハンマー接近(レットオフ)の寸法は変わらない。
2. ダンパー総上げを調整しても、スプーン掛けに影響はしない。
3. 鍵盤スティックの場合は、フロントを確認し調整する。
4. キャプスタンボタンの位置を奥に調整すると、働きが減少する。
5. 1～4 に該当なし

問(40) 以下の記述で、正しいものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. グランドピアノの同音連打性能は、アップライトピアノの約 1.5 倍である。
2. グランドピアノのダンパー止音は、鍵盤の深さを約1/3戻した位置である。
3. アップライトピアノで鍵盤の深さが足りないと、2度打ちすることがある。
4. アップライトピアノで、キャプスタンボタンの位置を奥にすると、タッチが軽めになる。
5. 1～4 に該当なし

問(41) ダンパーについて正しいものを1つ選べ。

1. グランドピアノのダンパー駆動量は、ペダル突上げ棒で調整する。
2. グランドピアノのダンパーストップレール調整は、鍵盤を押さえたときの遊びをゼロにする。
3. W型のダンパーフェルトで止音不良がある場合、音が止まっていない方のフェルトをペンチなどでつまむと直せる。
4. アクションの働き量が過剰の場合、ダンパーの上がり量に影響が出る。
5. アップライトピアノのダンパーペダルを適切に調整すると、ダンパー上がり量は、2mm 以下にはならない。

問(42) アップライトピアノ整調について、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 鍵盤深さ(あがき)が深いと、ジャックとジャックストップレールの隙間が少なくなる。
2. 上記1. でジャックとジャックストップレールに隙間が無くなると、2度打ちの原因となる。
3. 働きに関する工程は、打弦距離・ハンマー接近・鍵盤深さ・から直し(ロストモーション)などがある。
4. 連打性能に問題がある場合は、スティックやハンマーストップ(バックストップ)と共に上記3. の確認をするとうい。
5. 1～4 に該当なし

問(43) 整音の作業として、適切でないものを1つ選べ。

1. 針刺しは、ハンマーの下半分に均等に刺す。
2. 針刺しの深さは、低音では深く、高音では浅くする。
3. 針刺しは、ハンマーの頂点を避けて、放射状に入れる。
4. ハンマーフェルトの軟化で鳴らない場合は、硬化剤を使用する方法がある。
5. 硬化剤には、ラッカー、コロジオンなどが使われる。

問(44) 整音の作業として、適切でないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. ペーパー掛けは、音色改善のために行う作業の1つである。
2. ペーパーを掛けるときは、マスクを着用するとよい。
3. シューシャインと呼ばれる方法は、主に低音側で使うハンマー整形法である。
4. ペーパー掛けにより、ハンマーがユニゾンの複数の弦に同時に接するようにする。
5. 1～4 に該当なし

問(45) 次の記述で、適切なものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 弦のこじ角が小さいと、断線を招くことがある。
2. 巻線ジンの場合は、銅線を緩める方向にねじって張り直すと改善されることがある。
3. 断線を放置すると、隣接する弦が切れやすくなる。
4. 断線が多発する場合は、弦を細くすることにより張力が下がり、改善されることがある。
5. 1～4 に該当なし

問(46) 次の記述で、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. アップライトピアノのバックチェックフェルトは、全面接着する。
2. アップライトピアノのバットフェルトは、上側(1/2～2/3)を接着する。
3. アップライトピアノのキャッチャーの角度調整は、ハンマーの植込みと同時に行う。
4. アップライトピアノのダンパーレバークロスの接着は、スプーンおよびダンパーロッドの高さに当たらない部分を接着する。
5. 1～4 に該当なし

問(47) センターピン交換に関する次の記述で、適切なものを1つ選べ。該当するものがない場合、5を選べ。

1. プレート付きバットのフレンジでは、バットプレートスクリューでトルク調整できる。
2. センターピンをカットする際は、ブッシングクロスよりわずかに出ていることが望ましい。
3. センターピンの番手とミュージックワイヤーの番手は共通である。
4. ブッシングクロスとの隙間が少しある状態が良い。
5. 1～4 に該当なし

問(48) 次の記述で、正しくないものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. グランドピアノのダンパーが下がらなくなる原因に、ダンパーブロックフレンジのスティックがある。
2. グランドピアノの箴が戻らなくなる原因に、拍子木調整不良によるスティックがある。
3. 鍵盤鉛が緩むと、雑音の原因となる。
4. 響板割れは、高湿度の環境で起こりやすい。
5. 1～4 に該当なし

問(49) ペダル交換で、必ず行わなければならない作業を1つ選べ。

1. アップライトピアノの場合、底板を外す。
2. アップライトピアノの場合、前土台を外す。
3. アップライトピアノの場合、天秤を外す。
4. グランドピアノの場合、アクションを引き出す。
5. グランドピアノの場合、ペダル箱の底板を外す。

問(50) 消音型ピアノや自動演奏ピアノについて適切なものを1つ選べ。該当するものがない場合は、5を選べ。

1. 電子音源内臓の自動演奏ピアノは、電子音源に合わせて調律を行う必要がある。
2. 生ピアノの整調に先立って、センサーの調整を行う。
3. 光キーセンサーの調整を行うと、生ピアノのタッチが変化する。
4. ピアノ内部を調整する際は、安全のため電源プラグを抜く。
5. 1～4 に該当なし